

私がみた坂の上の雲

—第10弾—

新年号

心臓血管外科

主任部長 中尾達也



新年明けましておめでとう
ございます。新心会の皆様、お
元気でしようか？正月に帰省し
て宮島を望む広島の家で晴れ渡
った瀬戸内海に浮かぶ多くの小
島を見ながら原稿を書いている
心臓血管外科主任部長の中尾達
也です。昨年は、新心会主催旅
行には一回も参加できず皆様と
時間を一緒に過ごす機会もなく
大変申し訳なく思っております。

さて、2019年新東京病
院は51周年を迎え、私もここ松
戸の新東京病院の地に来て11年
になりました。過去新東京病院
に勤務された心臓血管外科主任
部長では天野篤先生が10年と最
も長かったのですがそれを更新
いたしました。心臓血管外科で
すが、昨年4月から松山先生と
入れ替わりに女医の久米先生に
きていただき北中先生、池谷先
生、津田先生、杉森先生と合わ
せて6人で頑張っているところ
です。

2019年度の実績を報告
致します。昨年1年間の開心術
(人工心肺症例341例、非人
工心肺症例およびオフポンプ冠
動脈バイパス手術15例)がCOPD
例に増加、胸部大動脈ステント
グラフト術19例で、心臓胸部大血
管手術総数は375例でした。急
中でも胸部真性、あるいは急

性、慢性解離性大動脈瘤などあ
らゆる形態の動脈瘤に対して開
始したオープンステントグラフ
ト手術は、良好な成績とともに
本邦でもトップクラスの症例数
(2014年7月〜2019年
12月までに184例)になって
います。この国産ステントグラ
フトの海外とくに保険償還が決
まった台湾での普及に、台湾の
台北や台中の病院まで足を運び
技術指導やアジア心臓胸部外科
学会やイタリアでの研究会等大
きな場所での講演に積極的に努
めました。今年は台北の病院か
ら本手技を積極的に学びたいと
手を挙げていた若い先生を1ヶ
月の期間受け入れる予定です。

低侵襲手術の2本の柱とし
て腹部大動脈ステントグラフ
ト(55例)、胸部大動脈ステ
ントグラフト(19例)治療は安定
した症例数と成績を維持した一
方で、MICS(右小開胸、胸
骨下部部分切開)での大動脈弁
や僧帽弁手術は26例ですが、そ
の代わりに重症複合弁膜症は本
年も順調に症例を増やしまし
た。また、柏癌センター呼吸器
外科や築地中央癌センター食道
外科と共同しての、心臓や頸部
血管、大血管にまで浸潤した肺
癌、縦隔腫瘍ならびに食道癌を
手術、治療することも引き続き
積極的に行い相互協力体制をよ

り信頼できる強固なものにして
います。さらに、千葉県内でエ
ホバの証人の心臓病患者に対し
て心臓手術を提供できる唯一の
施設としての役割も引き続き務
めています。

いつも申しておりますよう
に、手術を受けて頂いたにもか
かわらず残念ながら元気に退院
できなかった患者さんや御家族
の想いを、われわれ心臓外科ス
タッフが肝に命じてなお一層の
努力をしなければいけないとあ
らためて痛感しております。い
つも心臓血管外科の患者さんに
関わっているすべての病院スタ
ッフ、各部署、各人、一人一人
の御尽力に感謝致しております。
す。ありがとうございます。
今年も1年、ご指導とご支援の
ほど宜しくお願致します。今、
新東京病院には各科とも素晴ら
しいスタッフが集結しておりま
す。すなわち基盤となる大きな
幹が出来ています。今後いろい
ろなところで大きな枝が成長し
て花が咲き、小鳥が集まって安
心して休めるような環境を病院
スタッフみんなで作っていかね
ばなりません。

さて、私事で大変恐縮です
が、12月26日に86歳になる母親
が地元江波の入院施設で永眠致
しました。亡くなる1週間前に

危篤状態になり広島に帰り施設
で夜をともしに過ぎ少し回復の
兆しがみられたので松戸に帰っ
てきておりましたが、12月26日
の午後5時に弟から電話連絡が
来ましたが手術中であり、30分
後に折り返しの電話をしたとき
は弟のおせび泣きに母の死を確
認致しました。

61歳で亡くなった父親の知
らせもオーストラリアシドニー
の病院で手術中に聞き最終の飛
行機で日本に帰るも1日遅れの
対面となり、今回も帰省する列
車、飛行機の術もなく通夜には
顔を出せず何とか12月29日の朝
6時に新幹線に乗り込み昼から
の葬儀に喪主としての勤めを果
たせました。父親の病院での死
は闘病後の激しいものでしたが
今回の母親の施設での死は点滴
も何も無く静かな眠るような逝
き方だったそうです。私は医者
になって現在33年経ちました。
広島の高道高校という男子校出
身で広島大学卒業です。私は漁
師町である江波という土地で生
まれ育ちました。宮島の管弦祭
では江波の二十歳の若い衆が呉
の阿賀の漁師と一緒に管弦船を
3隻の船で引つ張ります(私も
親子3代で江波の伝馬船を漕い
だ)。被爆経験のある両親が江
波で牡蠣や海苔の養殖を家業と
していたので、小学生の頃の私

は海苔の天日干しを畑でよく手
 伝っていました。今回母が亡く
 なる1週間前に母の若い頃から
 の親友から母の生い立ちを(母
 からも少し聞いた記憶がありま
 す)詳しく聞きました。私の
 family history として紙面をお
 借りします。母は4人兄弟の末
 つ子で生まれましたがすぐに生
 母の姉の家に出され原爆でその
 姉夫婦が亡くなり、宮島の近く
 にある地御前の材木商の家に丁
 稚奉公で小学4年生の時に下さ
 れます。そのときにひどい仕打
 ちにあい学校にも行かせてもら
 えなかったそうです。中学にな
 る歳に呉にある音戸の病院で18
 歳頃まで住み込みで看護婦見習
 いをしていたのですが腎臓を
 壊し(醤油ご飯ばかり食べてい
 て)また広島に親戚を頼って舞
 い戻り、口添えをしてもらい御
 縁あつて中尾の本家に住み込み
 お手伝いとして働いていたとこ
 ろ私の父親に出会い結婚したそ
 うです。当時、本家では私の出
 生は認めてもらえずいろんな人
 の御尽力で中尾達也がこの世に
 出てきたそうです。

母は、どんな理不尽な環境
 でも負けない生きる力を持って
 いました。母が体を壊し広島に
 戻ってきたとき生母が働くパ
 ン屋に行き、「あんたは私のお
 かあちゃんじゃろ」と聞いた

ら「あなたなんか知らんわと言
 われたけど、なにくそと思つた
 わ」と平気で話していたいつも
 positiveな母、小さいときに
 教育を受ける機会を奪われてい
 たにもかかわらず父が亡くなつ
 たあと寒空の墓前でお経を全て
 暗誦していた賢い母をみて、生
 きることの真の醍醐味を教えて
 いただいた想いでいっぱいだし
 た。施設に入る前に広島江波
 の家に一人でいた頃は、30万?
 もする高額な洗濯機をカードで
 買わされたり、高額なりフォー
 ム詐欺にあつてもならん悪びれ
 ずに「何が悪いんじゃ、良くし
 てもらつたのに」と逃げた売り
 手の悪口を一切言わず一歩も譲
 らない母は、「しようがないの
 う」と言わせる度量がありまし
 た(ちなみにお金は私が払うの
 ですが)。さらに昔の記憶を辿
 ると、私が病弱ですぐ腕の骨を
 折つたりしていたお寺の幼稚園
 時代、交通事故にあつて4ヶ月
 も入院していた小学校時代には
 いつも「3度のまんま(ご飯)
 が食べられるだけで幸せと思わに
 やいけんよ」と諭すように言つ
 ていた母、小学校2年の音楽の
 授業参観に牡蠣うち場からもん
 ぺ姿で「先生への土産じゃ」と
 いつてビニールに入つた生牡蠣
 を平気で持つてきたたくましい
 母でした。

火葬場での最後のお別れの
 時に、母には、私をこの世に出
 してくれてありがとうと言いま
 した。理不尽に打ち勝つて養つ
 てきた生きる力を私に間じか
 みせて教えてくれた人だから。
 感謝!感謝です。 合掌

昨年5月の日本での研究会
 で、イタリアポローニヤ大学心
 臓血管外科教授のバルトロメオ
 先生にお会いすることが出来
 て、ポローニヤ大学主催の大動
 脈外科研究会に来てみたらとお
 誘いを受けました。本会は、2
 年に1度もう20年も開催され
 ていたことは後で知りました。
 400人余りの参加者(多くの
 著名な世界的心臓外科医を含
 め)が、バルトロメオ先生の人
 間性を尊敬、慕つて参加されて
 いました。そのような素晴らしい
 研究会にお誘いをしていただ
 いたロメオ先生には大変感謝し
 ております。(写真1)



写真1

ここ旧ポ
 ローニヤ大学
 は1088年
 に設立された
 イタリア最
 古、キリスト
 教圏でも最古
 の大学でガリ
 レオガリレイ
 やコペルニク
 スらが在籍し
 ており階段教室の人体解剖室
 (Teatro Anatomico, 解剖の劇
 場・写真2)で世界最古の人体
 解剖が白い石のテーブルの上で
 行われたそうです。医師になつ
 て33年経ちますがここに来て
 医者冥利でした。
 土曜日の夜にフランクフル
 ト経由でポローニヤに入り、翌
 日の日曜日は晴天、時間があつ
 たので急行列車でベネチアに観
 光に行きました。
 列車の到着場所は私の家が
 ある宮島とよく似ており、乗つ
 たゴンドラは漕ぎ手が一本櫂で
 漕いでおり、漁師の父が一本櫂
 で漕いでいたのと似ているな
 と幼少時に想いを馳せ「ゴンド
 ラじゃ、ゴンドラじゃ」と口ず
 さんでいました。
 よく月曜日と火曜日は終日
 研究会でしたが、外は冷たい雨
 が降り続いており勉強に最適、
 日曜日に唯一ベネチア観光が出

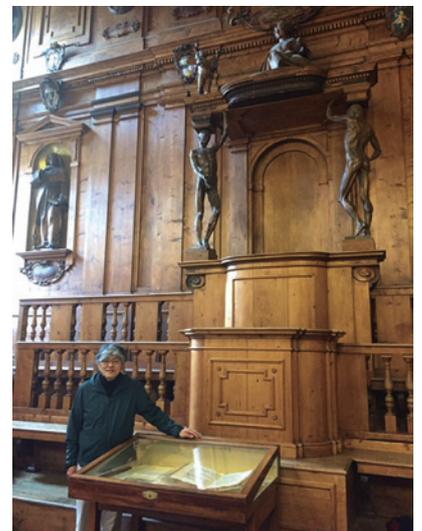


写真2



写真3

来て良かったなと思つていまし
 た。
 水曜日に帰路乗り継ぎのフ
 ランクフルトでインッターネッ
 トニュースを見ると日曜日に行
 ったベネチアは水没してしまし
 た(写真3)。じゃんじゃん!